

2021年度事業報告書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

1. 概況

2021年度も公益財団法人上原美術館としての各種公益目的事業活動推進を基本に運営を目指したが、今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大により、展覧会や教育活動に影響を受けた。実技講座や講演会、ワークショップなどは一部中止とせざるを得なかったものの、日本画制作を紹介する動画を作成、公開するなど新たな試みを行った。

今年度も来館者、職員の感染防止対策を取りつつ展覧会や実技講座を実施した。展覧会は当館の収蔵品から新たな美の視点を紹介した特別展『陰翳礼讃』、継続事業となる仏教美術調査の成果を発表した特別展『静岡の仏像+伊豆の仏像』、収蔵品の個々の魅力を紹介する『上原コレクション名品選』等を開催した。実技講座は感染症対策を行いながら再開したのに加え、試みとしてリモート・レッスンや通信添削などを行った。

今年度も引き続き学芸員が下田市をはじめとする文化財保護審議委員や河津町史編纂委員会副委員長を務め、地域文化の保護に努めたほか、静岡県博物館協会事業推進グループの委員に参加し、県内の文化向上への貢献を図った。また、学芸員は、収蔵品や寺院調査にもとづく調査研究を引き続き実施し、講演や専門誌やシンポジウムを通じて研究発表を行った。

昨年度より美術館の安定的、継続的な事業運営を目指して施設保全に関する中長期計画の検討を開始し、本年度は耐震調査や地盤調査、館内環境測定のほか建築設備の検討を行い、修繕や改築にかかる予算積立計画を策定した。

2. 上原美術館の運営管理(定款第5条第1号)

一 令和3年度美術館入館者及び収入実績

入館料は、仏教館・近代館共通で、大人1,000円、学生500円、高校生以下を無料としている。

公益財団法人 上原美術館			
入館者数	入館収入	図録等販売収入	収入合計
10,912名	819万円	64万円	883万円

〔 入館者内訳 〕

*大人	10,011名
*学生（大学、専門）	125名
*高校生以下	776名

3. 美術品の展示及び公開(定款第5条第2号)

(1) 企画展

<p>【仏教館・近代館共通】企画展 陰翳礼讃 影に浮かぶ仏の美／闇に輝く絵画の光</p>	
開催期間	4月29日(木・祝)～9月26日(日) [151日間] 出展作品数 67点 入館者数 3,359名
内 容	谷崎潤一郎の随筆『陰翳礼讃』をテーマに当館の所蔵品から、作品に新たな美を見出す試みを行った。展示室全体を日本家屋の暗がりに見立て、絵画や仏像のジャンルを越えた展示を行った。
<p>【仏教館】特別展 静岡の仏像＋伊豆の仏像 【近代館】企画展 鏑木清方《築地川》の世界</p>	
開催期間	10月9日(土)～2022年1月10日(月・祝) [94日間] 出展作品数 88点 入館者数 4,970名
内 容	仏教館は平安時代の薬師如来信仰に着目し、静岡市や伊豆半島内の寺院、堂宇から薬師とそれに付随する仏像群を紹介する展示を行った。近代館は新収蔵した鏑木清方《築地川》を中心に、清方が描いた挿絵など画業を紹介した。
<p>【仏教館・近代館共通】上原コレクション名品選 祈りの文字 祈りのかたち／花かおる絵画</p>	
開催期間	2022年1月22日(土)～4月17日(日) [86日間] 出展作品数 72点 入館者数 1,805名(2022年3月31日迄)
内 容	近代館は花のかおり漂う絵画を当館コレクションの中から選んで展示を行った。仏教館は洋の東西を越えて、人々が祈りをこめた美を展示、古写経やアイコンなどを紹介した。

(2) 教室生徒の作品展(※入場無料)

全教室の作品展をアトリエにて実施した。

教室名	開催期間[開催日数]
仏像彫刻教室	3月1日～3月5日[5日間] 出展作品数 34点 入場者数 78名
写経教室	3月8日～3月12日[5日間] 出展作品数 20点 入場者数 47名
デッサン・水彩画教室	3月31日～4月4日[5日間] 出展作品数 19点 入場者数 89名
日本画教室	3月23日～3月27日[5日間] 出展作品数 15点 入場者数 115名

(3) 館外出品

国内で開催された3展覧会へ収蔵品の貸出を行った。

展覧会名	「須田国太郎展 ～油彩と能・狂言デッサン～」 於：中信美術館（京都府）
開催期間	4月7日(水)～5月16日(日) [40日間]
貸出作品	須田国太郎《スケッチブック》
展覧会名	「京都市京セラ美術館開館1周年記念展 上村松園」 於：京都市京セラ美術館
開催期間	7月17日(土)～9月12日(日) [58日間]
貸出作品	上村松園《初雪》
展覧会名	「府中市美術館開館20周年記念 動物の絵 日本とヨーロッパ ふしぎ・かわいい・へそまがり」 於：府中市美術館（東京都）
開催期間	9月18日(土)～11月28日(日) [72日間]
貸出作品	アルブレヒト・デューラー《アダムとエヴァ》

4. 美術品の収集、整理及び保管(定款第5条第3号)

(1) 美術品の収集

本年度は、以下の作品を購入した。

購入作品	
作者名	作品名
不詳	高野大師行状絵巻断簡
不詳	金銀野毛散観普賢菩薩行法経断簡
須田国太郎	紅鶴
安井曾太郎	紫禁城
鏑木清方	みぞれ

本年度は以下の2作品の寄贈を受けた。

受贈作品	
作者名	作品名
須田国太郎	しだれ桜
ピエール=オーギュスト・ルノワール/ リシャール・ギノ	小さな鍛冶屋

(2) 美術品の整理及び保管

上原美術館では、引き続き温湿度や空気質、電力使用量のデータ収集分析等、館内の環境調査を専門家とともに実施し、美術品保存環境の維持に努めた。また、IPM(総合的病害虫管理)の考え方に基づいた文化財害虫やカビの予防管理も行った。中長期計画の検討にもとづき、第三者による館内環境測定を実施した。

5. 美術品に関する調査研究及び研修会、講演会等の開催

(1) 調査研究

今年度は以下の寺院調査、実見を行った。

- ①三島市・蓮馨寺調査(6月21日)
- ②伊豆の国市・眞珠院調査(7月7日)
- ③静岡市・松野阿弥陀堂・坂ノ上薬師堂(7月16日)

- ④熱海市・逢初地蔵堂調査(10月18日)
- ⑤伊豆の国市・西琳寺・宗徳寺・御門地区集会場・奈古谷地蔵
(2022年2月17日)
- ⑥三島市・祐泉寺・本妙寺調査(3月23日)

(2) 研修会の開催 (定款第5条第4号)

仏像彫刻教室		
講師[仏像彫刻家]	受講者	開催日時
岩松 拾文氏 大谷 文進氏	34名	毎月1回(年8回実施) 第3日曜日
写経教室		
講師[書家]	受講者	開催日時
山田 修也氏	26名	毎月1回(年9回実施) 第2日曜日
仏教美術講座		
講師	受講者	開催日時
当館学芸員(交代)	20名	毎月1回(年9回実施) 第2日曜日
デッサン・水彩画教室		
講師[現代美術作家]	受講者	開催日時
小野 憲一氏	16名	毎月2回(年22回実施) 第2・4水曜日
日本画教室		
講師[日本画家]	受講者	開催日時
牧野 伸英氏	13名	毎月2回(年22回実施) 第2・4火曜日

本年度も仏像彫刻教室、写経教室、仏教美術講座、日本画教室、デッサン・水彩画教室の5教室を開催した。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、仏像彫刻教室は4回休講とした。写経教室は休講の代替として3回の通信添削、デッサン・水彩画教室は4回の通信添削、日本画教室は4回のリモート・レッスンをを行った。

(3) 講演会の開催

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの人が集まる当館主催イベントは見合わせた。

(4) レクチャー、ギャラリートーク等の開催(会場：上原美術館)

アトリエトーク 講師：当館学芸員

計 10 回開催 参加者合計 45 名

ギャラリートーク 講師：当館学芸員

計 7 回開催 参加者合計 94 名

※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、会場にアトリエ棟を用い、少人数での作品解説を行った。

※感染症の拡大状況を考慮しながらギャラリートークを開催した。
いずれも参加者に定員を設けて感染症拡大防止につとめた。

(5) ワークショップ開催(講師：当館学芸員)

新型コロナウイルス感染症拡大防止につとめながら、以下のワークショップを開催した。

ワークショップ名	開催先	開催日	参加人数
はじめての日本画	伊豆の国市こども教室 「あいキッズ」	8月2日	12名

伊豆の国市こども教室は伊豆の国市生涯学習課が主催し、当館へワークショップ開催依頼があり協力を行った。

(6) 外部からの依頼による講演会開催(講師：当館学芸員)

講演名	開催日時	聴講者
浜松市美術館での講演	4月10日	43名
伊豆の国市での講演	5月15日	200名
下田市寿大学での講演	5月19日	40名
かなみ仏の里美術館でのボランティア ガイド向けの講座	11月2日 11月16日	40名
河津バガテル公園での講演	11月3日	21名
SBS 学苑での講座	11月24日	30名

下田市史講座での講演	12月12日	40名
熱海市・紙感謝祭での講演	12月13日	30名
ナビ派オンラインシンポジウム登壇	12月13日	50名
静岡県立文化芸術大学での 博物館学講座	12月16日	20名

(7) 動画による教育普及活動

日本画教室講師の牧野伸英氏に協力をいただき、日本画の描き方を紹介する動画を YouTube 上にて公開した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面ワークショップが開催できない中、当館の教育普及活動の新しい取り組みとして行った。

6. 美術品に関する資料の収集、保管及び公開 (定款第5条第5号)

調査研究、公開を目的に美術関係図書や美術関係資料等、また仏教美術、伊豆半島の地誌を主体とした調査研究に関連する書籍を収集した。

- ・本年度の収集図書数 472冊 (仏教 212冊、近代 260冊)

7. 美術品に関する解説書等刊行物の作成頒布(定款第5条第6号)

	内容
年間展示予定	2021年度の上原美術館展示案内を作成。 1年間を通して開催する展覧会と当館の紹介を行った。
ポスター等	展示会毎にポスター・チラシの作成頒布。
美術館だより	年4回発行。 (1回約4,000部を無料頒布)
その他	展覧会ごとに出品リストを作成し、来館者へ無料頒布したほか、解説動画を作成し、館内での放映やウェブでの公開を行った。 特別展『陰翳礼讃』は冊子を作成し無料頒布した。 特別展『静岡の仏像+伊豆の仏像』は作品解説と論考を収録した展覧会図録を作成し、希望者には販売した。

8. その他目的を達成するために必要な事業(定款第5条第7号)

地域の教育文化の向上を目的として、今年度も高校生以下は年間を通して無料とした。静岡県内全児童を対象とした事業「キッズアートプロジェクトしずおか」に協力を行った。

また、小中学生、高校生を対象とした出張授業や授業入館、学芸員を目指す学生を対象にした博物館実習、教職員の外部研修受け入れも継続して実施した。

その他にも、静岡県博物館協会事業推進グループのほか、市町の文化財保護審議会委員を学芸員がつとめ、地域文化向上に寄与した。

(1) 学校教育との連携

今年度も以下の学校教育との連携をはかった。出張授業は、伊豆地域の小・中学校、高校から依頼があり、奈良・京都方面の修学旅行の事前学習や、美術鑑賞教育を行った。

また今年度は初めて静岡県立文化芸術大学と提携し、学芸員資格の取得を目指す学生の博物館実習受け入れを行ったほか、大学で博物館学の出張授業を実施した。県立文化芸術大学とは今後も継続して学生の実習受け入れを行うことを予定している。

・ パスポート*入館者 合計 174 名

*静岡県内の小学生に配布される無料入館パスポート

・ 出張授業 6校(7回) 合計 205 名

・ 授業入館 10校(11回) 合計 462 名

・ 教員研修 7名(賀茂地区図工美術部研修)

・ 職場体験 3名(静岡県立伊東高校城ヶ崎分校)

・ 博物館実習 10名

(静岡県立文化芸術大学、東海大学、東京造形大学、都留文科大学)

(2) 美術館の安定的、継続的な事業運営を目指して、施設保全に関する中長期計画の検討を昨年度より実施している。開館以来、仏教館は39年、近代館は22年が経過し、今後、具体的な建物の修繕計画等が必要となるため、耐震調査、地盤調査、インフラ調査、館内環境測定を行い、建築コンサルタントとともに現状の把握と将来計画を検討した。2022年度末にはこれらの調査にもとづき、近代館の修繕に必要となる予算積立を開始する。

(3) その他

地域文化への貢献として、田島整主任学芸員が引き続き下田市、伊東市、河津町、南伊豆町、富士市の文化財保護審議会委員として各市町の文化財指定や文化財保護に関わった。町史編纂事業では、河津町史編纂委員会で副委員長をつとめ、河津町史編纂事業に携わった。また南伊豆町史編纂委員の活動も行った。そのほかに浜松市美術館で開催された特別展『みほとけのキセキー遠州・三河の寺宝展ー』に田島整主任学芸員が特別協力し、搬送や展示に関する助言を行った。

土森智典主任学芸員は昨年度に引き続き、静岡県博物館協会の事業推進グループに参加し、静岡県内の美術館・博物館等との連携構築、講習会の開催や災害時の加盟館・園の協力体制の整備を行った。また一橋大学大学院言語社会研究科・小泉雅也教授主催のオンラインシンポジウム『日本の美術館とナビ派ー地方美術館から考える研究の可能性ー』に発表者として参加し、当館と他館との研究連携を深める機会となった。

伊豆半島ジオパーク推進協議会主催の「伊豆半島こども絵画コンクール」選考員を土屋絵美学芸員がつとめた。

以上